



～体験搭乗参加者からの感想文～ 「体験搭乗を終えて」 倉岡 慎平

平成26年5月17日、立川駐屯地でのヘリコプター体験搭乗に参加しました。立川駅から迎えるシャトルバスに乗り駐屯地に着くと、駐屯地の広大さに驚きました。

駐屯地では、パイロットからの安全教育を受け、第1フライトのヘリコプターに搭乗することになりました。ヘリコプターに搭乗すると、エンジンの轟音と機体の振動で、自分の体も緊張で震えました。

しかし、不思議なことに機体が空へ上がると、それまでの緊張は消え、まるで自分がこれから任務地に出勤する自衛隊員になった様な気持ちになり、身が引き締まりました。

今回のヘリコプターの体験搭乗を通じて自衛隊が単なる憧れではなく、必ず自衛隊員となって日本の国土を守るという強い覚悟になる経験となりました。



生命を守る「自助・共助」 宿泊防災教育を支援

東京地本（本部長 高田克樹陸将補）は、平成26年5月30（金）、都立高校生に対する宿泊防災教育を支援した。この教育は、東京都教育庁が推進する施策であり、支援依頼を受けて実施しており、今年で3年目となる。

東京地本は、都立高校生に対して「災害から自らの生命を守る『自助』、助け合いや社会貢献など『共助』の精神を育み防災に関する意識の高揚を図ること。」という都の目的達成に寄与するため支援を実施した。

当日は1年生236名が参加し、東京地本からは22名が支援した。支援内容は、「防災講話」、「応急担架の作成・搬送」、「三角巾を使用した応急処置法」の3つ。

渉外広報室長 瀧澤健二3等陸佐による防災講話は「自衛隊の災害派遣活動を通じて感じた防災について」自助・共助を考えるためのヒント」と題し、阪神淡路大震災の災害派遣映像と調査報告書データを基に、首都直下地震の脅威について認識を深めるとともに「自助・共助」の重要性について理解させた。

続いて、体験実習として応急担架の作成・搬送及び三角巾を使用した応急処置法を実施した。実習時間は各1時間と短かったものの、生徒たちは最後まで、担架の作成や止血法を熱心に取り組んでいる様子だった。

参加した生徒からは、「自助・共助の重要性が理解できた。」「担架はとても重く人を運ぶ大変さがわかった。」「三角巾の様々な使い方方を教えてもらい大変勉強になった。」といった声が聞かれ、今回の教育が、生徒達の自助・共助の精神を育み防災意識の向上が図られたことが確認できた。

東京地本は、今後も引き続き宿泊防災教育を支援し、都立高校生に対する防災意識の高揚に協力していく所存である。

